

平成 29 年度 学融合推進センター 学融合レクチャー実施報告書

講義名	大統合自然史 II: 生命・人類編
申請代表者 (授業実施責任者)	研究科:
	専攻:
	氏名: 鎌田進
開催日時・場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 7/25 ガイダンス (TELAS@SOKEN) ● 9/13-15 集中講義 (JT 生命誌研究館, 国立民族学博物館, スペースα神戸)
受講者数	物質構造科学専攻: 2 名
	地域文化学専攻: 1 名
	その他 (外部) 1 名

○ 授業概要

「大統合自然史 II (生命・人類編)」を実施した。宇宙の始まりから今日まで、人類を含む全自然界で生じた森羅万象を歴史的に認識・理解する試みを通じ、自身の専門分野を学問的社会的に位置付け俯瞰することを目指す大統合自然史の後半部にあたる。設定した教育目標は以下の通りである。

- 宇宙・地球・生命・人類・文化の各領域における歴史的出来事の概要を、領域相互間の関連を含めて説明できるようになる。
- 今後の自己の研究課題と志向する分野について、その学問的及び社会的位置づけを語ることができるようになる。
- 五感を超えた自然界の認識のため、様々な道具が使われることを知る。
- 適切に選択された文献を読みこなし、課題内容にあったレポートを書くことができる。
- 現物資料をもとに推論を深め、問題意識を持つことができる。
- 他者とのディスカッションを効果的にすることができる。

○ 実施報告

❖ 日程

7月25日 (火) TELAS 配信による遠隔授業

- ガイダンス「大統合自然史の概要紹介、課題図書と事前レポート課題提示、総合案内など」鎌田進 (総研大/KEK)、七田麻美子 (総研大)

9月13日 (水) JT 生命誌研究館: 講義と展示見学、スペースアルファ神戸: ワークショップ

- 講義「宇宙・地球・生命・人類を貫く時間軸」伊村智 (極地研)
- 講義「生命誌一内から創る新しい知」中村桂子 (JT 生命誌研究館)
- 展示見学「JT 生命誌研究館」研究館スタッフ
- 講義「ヒトの行動を生み出す「脳」の理解: モデル生物を用いた研究」岩里琢治 (遺伝研)
- ワークショップ「自身の専門分野を時間軸上に位置付け、他分野と共通する直交軸を探る」七田麻美子、菊地浩平 (総研大)

9月14日 (木) 国立民族学博物館: 講義と展示活用ワークショップ

- 講義「文明の転換点における博物館」吉田憲司 (民博)
- 講義「古代文明の生成過程に関する理論的転回: 南米アンデス地域を中心に」関雄二 (民博)

- 講義「文化人類学と民博展示理念」久保正敏（千里文化財団）
 - ワークショップ「通文化的にみた人類の活動の多様性・一斉性を考える」久保正敏
- 9月15日（金）スペースアルファ神戸：講義とワークショップ
- 講義「人類の進化と Homo sapience の特殊性」長谷川真理子（総研大）
 - 講義「地球の限界・人間の限界 未来に楽しく背を向ける」阿部健一（総合地球環境学研究所）
 - ワークショップ「受講生・教員共々に総合討論：大統合自然史と人類の可能性」鎌田進、菊地浩平、七田麻美子

❖ 教育目標の達成について

上記の教育目標については、個別演習課題、講義レポート、グループ活動、最終課題を以て評価を行い、各受講生共に、十分な学習成果を得たと考えられた。

○ 授業評価

本授業は、研究者を目指す大学院生が「個別専門性にとどまらない独立した視座を得て、自らの研究の学問的および社会的位置づけを俯瞰的できるようになることを目的」として実施された。授業の開発に関しては、本授業に先立つ「大統合自然史Ⅰ宇宙・地球編」を含め、平成27年度より授業開発研究会を実施して行われた。高エネルギー加速器研究機構、国立天文台、宇宙航空研究開発機構、国立極地研究所、国立遺伝学研究所、国立民族学博物館、総合地球環境学研究所所属する研究者の研究成果をもとに、産業技術総合研究所地質標本館、JT 生命誌研究館等の協力を得て授業内容を組み立て、上記のカリキュラムの形を作り上げた。

こうして作成したカリキュラムに関しては、受講者アンケートにより、受講満足度、自己効力感、学習モチベーションにおいて高い評価を得ており、受講者の本授業による学習が、受講に際しての受講動機、学習者の受講目標において一定の意義を持っていたことが伺えた。また、開発研究会に参加していた教員による授業評価では、学生に対する教育効果が高く、今後のブラッシュアップを含めたプログラムの続行を求める意見等が見られ、研究者を目指す学生への教養教育的授業としての意義が高いと考えられる結果が得られた。

○ その他